

お互いの個性について

西部地区 神田元治

明けましてお目出とうございます。私に何が書けるか心配です。

私は三十八年前に病院で再生不良性貧血と診断されました。当時の医学では、どんな治療を行って良いのか分らず、まず輸血をと云ふ手段で臨みました。ようやく三十人位の人に戴く事が出来ました。と云うのは女性の場合は生理の時、男性の場合は酒を飲んで血液の薄い時は不合格です。この状態で血液を戴きながら生き続けるのが辛いので、ある人に進められて、名大付属病院に入院、八ヶ月を過ごしました。その間、喘息で苦しむ方、白血病で死んで行く方、沢山の死を見て来た時、人間何の為に生きて居るのか、また何の為に生まれて来たのか、考えさせられました。そして今、市老連の方々と生活する時、役がしたくないので会員をやめる、あの人が居るので出席したくない、人間の我儘な事に気が付きました。けれども私もこの我儘を通して生きて居るんだなと気が付きました。ある大学の教授が自分自身の話をしてくれました。百万人に一人の血管腫と云

う病氣、顔が海綿状血腫で血管がふくれて来る。本当におぼけのパケモノ、お岩さんの様な顔をした人でした。子供の時バケモノ、お岩さん、バッチイ、不潔、とこのしられて育ちました。救われたのは母が助産婦と看護婦の免許を取り、進んでPTAの会長を買って出て、いじめられる私の力に成ってくれた事。二十五才の時十時間に及ぶ手術で全身の血管を入替えたのに、就職の時、試験を三十回位受け、学科では合格なのに、面接で全て不合格で始めて出発の決心が付きました。自分の病氣と戦う。血液の医学に入り、ハンセン氏病の研究、自分への血管腫を範例に良い先生に恵まれる。今では皆様の講演も出来て例えば、いじめめる人、切れ易く、どうしようもない人、スピーディーで早く結果を出す人、ふるい立って行動する人、人それぞれいい所を見つけてほめる、お互いに助け合い、一日一日を過ごしたい。今日亦今年二度と戻らない。今年一年よろしくお願います。



耐震の診断と補強を

府相地区 倉橋市三

台風と地震で日本中が天災に会ったそんな一年だった。お陰で私達の町は小難で済み、まずはひと安心ですが、災害のための被害を受けられた皆様方には心より御見舞い申し上げます。私も昔十三号台風や伊勢湾台風で大変恐ろしい思いを致しました。台風に対する強い恐怖心を持っていたが、地震に付いての怖さは少なかった。ところが阪神大震災をテレビで見ると、その被害の大きさを知り驚きました。その後、東海沖や東南海地震の起きる可能性が非常に高いと云われ、蒲郡でも木造中古住宅の耐震診断を行い、危険住宅は補強をして、市民が安心して暮らせる町にしよう。それには耐震診断を受け易くする為、市が診断費用を補助し、無料で診断が受けられる様になった。と云う事を広報「がまごおり」で知り、早速市に申し込みました。私の家は縦横とも四、五間の眞四角の木造二階建住宅です。建築は昭和五二年です。平成十五年五月、診断員の方が見えられ、診断を下さいました。約一ヶ月後、診断の結果が判りまし

た。総合判定は0.77で「やや危険」でした。耐震工事に付いては市に工事費の融資制度があり、条件により六十万円迄は受けられるが、私の家は条件外でだめと云われた。それだけまだ家が丈夫だということですが、私達家族が少しでも安心して暮せるならと思いい知合いの業者に補強工事をお願い致しました。工事の費用は人件費四人分と材料費など合計十三万円余りでした。工事の効果は本年九月五日の紀伊半島沖地震で判りました。今迄は上下別々にゆらゆら揺れたが今度は全部一緒に揺れました。つまり箱の中に居る様だった。これも耐震補強工事のお陰と少し安心致しました。けれど十月の新潟県の中越地震の様な震度七の激震が来た時にはどうなるか、その時は運だけだと思えます。参考までに、耐震については市役所安全安心課に問い合わせを。

